



天文資料

2018年 8月号

平成30年度 第5号 (8月号)

平成30年 7月25日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜今月は土星と火星が見ごろとなる。ペルセウス座流星群にも注目！＞

梅雨末期となった7月上旬の豪雨は、西日本を中心に大きな被害をもたらしました。梅雨といえば以前は「しとしと」の雨といった雰囲気でしたが、最近是非常に荒々しい天気になることが増えています。被災地の一日も早い復興を願ってやみません。

その梅雨が明けたとたんに記録的な猛暑が続いています。夜も熱帯夜が続いているので、熱中症には十分気をつけながら夜空を見てください。今の時期、7月中は東寄りだった天の川も、南から天頂に向かって立ち上るようになり、こと座のベガ、はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイルでつくる「夏の三角形」も頭の真上に見えるようになっています。南の空で主役を張っていたさそり座もいて座にその座を譲り、それに伴い惑星も木星から土星・火星に主役の座が移っています。



土星は木星や火星のような明るさはありませんが、環が大きく傾いていますので、望遠鏡で見るととても見ごたえがあります。気象条件が良ければ環が2つに分かれて見えたり、土星本体に薄い縞模様が見えたりすることもあります。

火星は7月31日に地球に最接近し、少しずつ遠ざかっていきますが、8月一杯は-2等級と十分明るく、また時間も見やすい時間帯になってくるので、この1か月は、最適な観望シーズンと言ってもいいかもしれません。まずはその赤さを目に焼き付けていただき、その後、望遠鏡で観望されることをお勧めします。15年ぶりに地球に大接近となる火星ですので、表面の暗い模様なども見ることができるでしょう。

＜その他の8月の主な天文現象 ～夏休みの自由研究に～＞

夏休み真っ最中、8月の天文現象を紹介します。

8月12日(日)～13日(月) ペルセウス座流星群が見える



8月13日(月)の午前中にピークを迎えるという予測が出ている今年のペルセウス流星群ですが、今回は月明かりもなく絶好の条件となっています。暗い空に行けば、北東の空の一角(カシオペア座とペルセウス座の間)から1時間に40個ほどの高速の流星が飛ぶのを見ることができるでしょう。この流星の特徴は消える直前に爆発するものがあること、煙のような跡(流星痕と言います)を残すものがあることです。



8月18日(土) 金星が東方最大離角となる

金星は現在、西の空で「宵の明星」として輝いていますが、18日(土)に東方最大離角となり、内合(太陽と地球の間を通る)に向かいます。金星や水星といった内惑星は月と同じような満ち欠けをします。現在、金星は半月のような形をしていますが、これから三日月のような形が変わっていきます。望遠鏡で見る機会があったら、その変化をぜひ観察してください。

国立天文台では、ペルセウス座流星群を観察・報告するキャンペーンを実施します。詳細は国立天文台HPまで。